

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 郡上特別支援学校 学校運営協議会 (第1回)
- 2 開催日時 令和8年5月25日(月) 13:15～15:15
- 3 開催場所 郡上特別支援学校 大和校舎 体育館
開催にあたり、委員による授業参観を実施した。
- 4 参加者

会 長	板倉 寿明	愛知淑徳大学講師
副 会 長	水野 正文	郡上大和総合開発株式会社代表取締役社長
委 員	森藤 文男	郡上市議会議員
	池戸 節子	郡上市社会福祉協議会障がい者相談支援事業所相談支援専門員
	石田 紀美江	郡上大和総合開発株式会社人事管理部長
	野田 美鈴	社会福祉法人ぶなの木福祉会理事長
	増田 雅幸	郡上市大和町栗巣地域代表
	山田 泰子	郡上市八幡町那比地域代表 (欠席)
	小澤 久美子	卒業生保護者
	山田 光成	令和8年度PTA会長

学 校 側	林 哲治	校長
	瀧下 直子	副校長
	垣内 友宏	事務部長
	上村 篤	教頭
	中澤 奈月	小・中学部主事
	齋藤 律	高等部主事
	横関 麻衣子	教務主任

- 5 会議の概要(協議事項)
 - (1) 今年度の学校運営について
 - ・教育の概要
 - ・組織の運営(教職員の業務管理・健康確保措置)
 - ・学校整備の概要
 - ・年間行事計画
 - (2) 今年度の取組について
 - ・地域連携推進計画
 - (3) 作業製品の価格設定について

- ・昨年度末に提案したのと同じ作業製品について価格を確認し、承認を得た。
- ・中学部の作業製品は第2回学校運営協議会で確認する。

(4) 質疑応答、意見

意見1：教育の概要に示されている「地域」について、郡上の魅力をどのような活動や教材で児童生徒に伝えるのか。

⇒小学部は豊かな自然を生かした体験活動、中学部は特産物を中心とした食育と文化の学習、高等部は地域の祭りや就労の場など地域の方との協働を計画している。

意見2：地域の魅力については「郡上かるた」に集約されている。ふるさと学習に活用してほしい。

意見3：学校が地域とのつながりを強めていることに感心している。郡上の若者は、学校を卒業すると地元から離れる人が多いが、地元の文化や過去の経験から郡上に戻ってくる人もいる。地域とのつながりを大事にし、安心、安定できる関係性を築いてほしい。

意見4：卒業生や在校生の姿を見ると、待つ支援の大切さ、有用性を感じる。

意見5：SNSをはじめとする情報機器の使い方やマナーは在学中に限らず、社会に出てからも共通の課題である。

意見6：卒業後に向けて家庭との連携は早期からあるとよい。

意見7：生徒会役員選挙では、実際の選挙と同じ用具を使用して投票方法について学習していることは、とてもよい。選挙権を得たときに、自分の権利を行使していくことにつながる。

意見8：自立を考えたとき、保護者としては、一人でできることばかりに目を向けやすいが、学校では、依存先を増やすこと、助けを求められる力を身に付けられた。本人の気持ちで安定した状態で家庭から送り出し、笑顔で出かけられるようにしたい。

意見9：地域のシニアクラブは、学校からの様々な依頼を歓迎している。児童生徒と触れ合える経験を嬉しく感じている。

意見10：「あかるく なかよく たくましく」の校訓が根付き、具現化した活動ができるとよい。

意見11：郡上の良さは、皆が一緒になって考え、良くしていこうとすることにある。学校や地域それぞれではなく、すべてを一つにした「郡上」として考えていきたい。

6 会議のまとめ

全委員より今年度の本校の学校運営方針について承認が得られた。特に、地域と共にある学校づくりについて、目指すべき学校の在り方、教育の在り方に対して思いを共有した。

本校から地域社会へとスムーズに移行し、児童生徒が地域で豊かに暮らせるよう、ふるさと教育や、情報モラルや情報機器活用の学習、家庭との早期からの連携の充実に向けて、地域と共に学校運営に取り組んでいきたい。